

第191回 取引先企業景気動向調査

2025年 10 - 12 月 実 績

2026年 1 - 3 月 見通し

 瀬戸信用金庫

総合企画部

< 調査の概要 >

- 調査期間 2025年10～12月を対象に12月上旬に実施
- 調査対象先 298社
- 調査対象地域 瀬戸・尾張旭地区および名古屋地区
- 分析方法 「増加したとする企業割合」と「減少したとする企業割合」の差(DI)を中心に分析した
 ※DIとは、業況を判断するための指数で、＜良い(やや良い)と答えた割合＞から＜悪い(やや悪い)と答えた割合＞を引いた数値で、どちらの割合が多いかを比べて業況がどの方向に向きつつあるかの判断を指数化したもの

●調査企業の業種構成

《瀬戸・尾張旭地区》

企業数 (社)	陶磁器製造業						珪砂 製造業	建築・土木・ 生コン製造業	螺子 製造業	和飲食器 卸売業	電設資材 卸売業	合計
	ノベルティ	洋飲食器	タイル	電磁器	ファインセラミックス	和飲食器						
	15	7	7	24	13	18	10	20	16	20	16	166

《名古屋地区》

企業数 (社)	製造業			卸売業			建設業	合計
	繊維製品	機械部品	紙加工品	鋼材・伸銅品	建築材料	家具・文具		
	11	36	15	19	14	7	30	132

●天気図の見方

好調 ←      → 低調

景気動向は、1971年(昭和46年)から調査を開始し、現在の調査方法は2006年(第112回 1～3月期)より開始しております。

■瀬戸・尾張旭地区 【業種別の業況天気図】

業 種	2023 年 12 月	2024 年 3 月	6 月	9 月	12 月	2025 年 3 月	6 月	9 月	12 月	2026 年 見通し 3 月
陶磁器製造業	ノベルティ 6.7									
	洋飲食器 ▲28.6									
	タイル ▲14.3									
	電磁器 ▲27.3									
	ファイン セラミックス 7.7									
	和飲食器 0.0									
陶磁器製造業合計	▲8.2	▲7.1	▲14.1	▲16.5	▲14.5	▲6.1	▲7.3	▲6.1	▲1.2	▲7.1
珪砂製造業	▲10.0									
建築・土木・ 生コン製造業	11.1									
螺子製造業	0.0									
和飲食器卸売業	14.3									
電設資材卸売業	▲5.6									

■名古屋地区 【業種別の業況天気図】

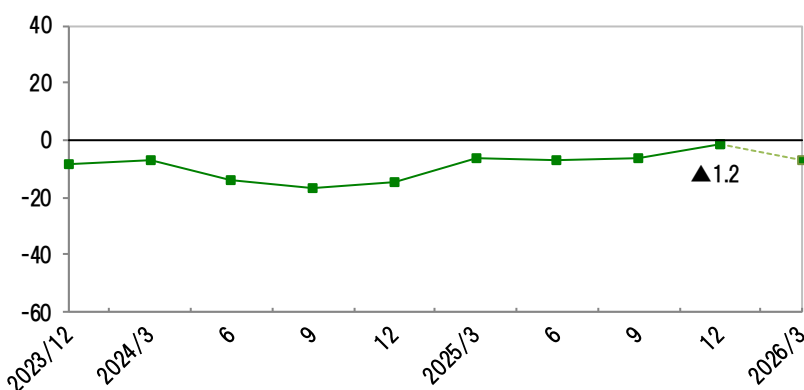
業 種	2023 年 12 月	2024 年 3 月	6 月	9 月	12 月	2025 年 3 月	6 月	9 月	12 月	2026 年 見通し 3 月
繊維製品製造業	▲9.1									
機械部品製造業	▲5.4									
紙加工品製造業	▲7.7									
鋼材・伸銅品卸売業	▲15.0									
建築材料卸売業	7.1									
家具・文具卸売業	0.0									
建設業	10.0									

■ 瀬戸・尾張旭地区

＜ 陶磁器製造業 ＞

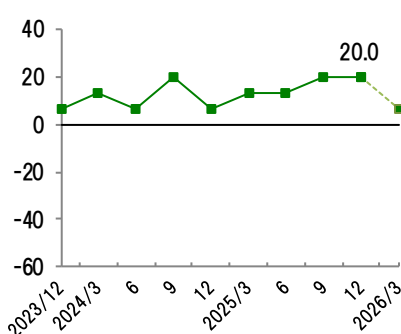
業種	2025 年 10-12 月（今回）業況	2026 年 1-3 月の見通し
陶磁器製造業全体	「ファインセラミックス」において業況の後退感が見られたものの、「電磁器」において持ち直しの動きがあったことから、全体の業況感は改善した。	悪化見通し
ノベルティ	前回調査に続きプラス圏で堅調に推移	後退見通し
洋飲食器	前回調査に続きマイナス圏で横ばい推移	同水準の見通し
タイル	低下基調、前回調査に続きマイナス圏で横ばい推移	改善見通し
電磁器	改善傾向、プラス圏に回復	悪化見通し
ファインセラミックス	後退傾向ながら、前回調査に続きプラス圏で推移	同水準の見通し
和飲食器	改善傾向ながら、前回調査に続きマイナス圏で推移	悪化見通し

業況DIの推移 [陶磁器製造業]

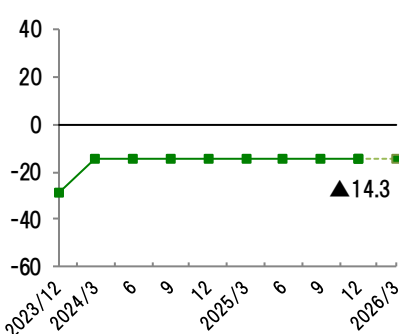


＜ 陶磁器製造業の業種別 DI ＞

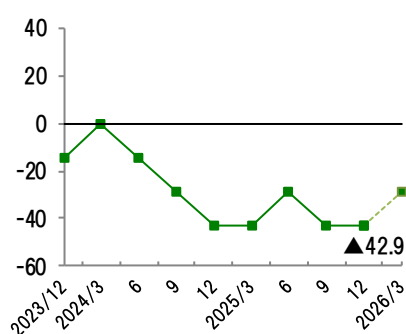
業況DIの推移 [ノベルティ]



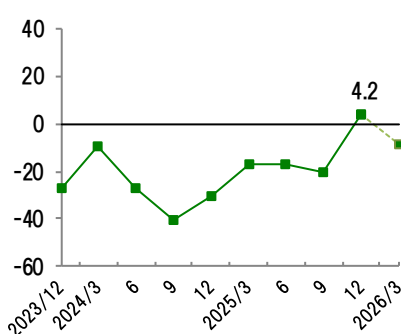
業況DIの推移 [洋飲食器]



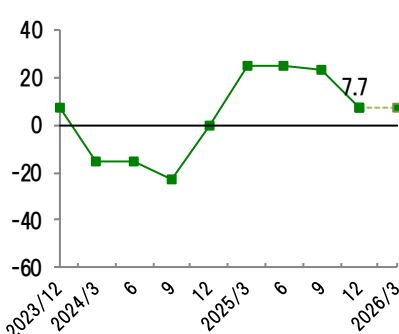
業況DIの推移 [タイル]



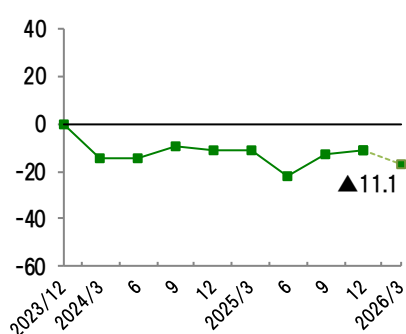
業況DIの推移 [電磁器]



業況DIの推移 [ファインセラミックス]



業況DIの推移 [和飲食器]

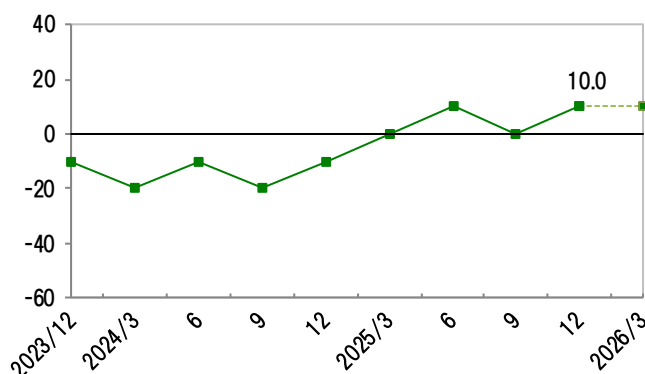


< その他製造業 >

業種	2025 年 10-12 月（今回）業況		2026 年 1-3 月の見通し	
珪砂		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		同水準の見通し
建築・土木・生コン		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		後退見通し
螺子		改善傾向、前回調査に続きプラス圏で推移		後退見通し

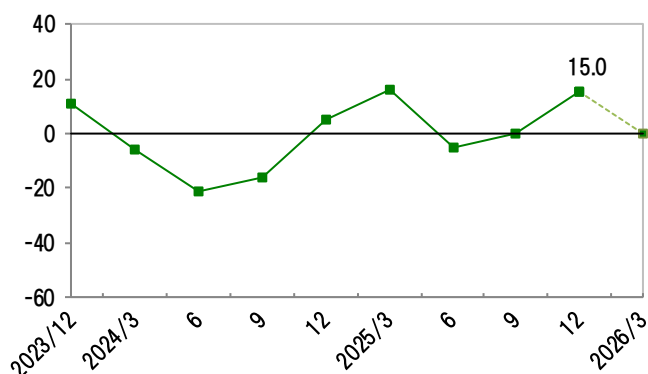
業況DIの推移

[珪砂製造業]



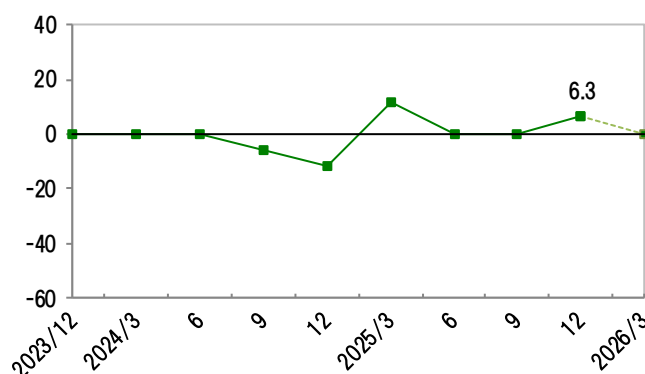
業況DIの推移

[建築・土木・生コン製造業]



業況DIの推移

[螺子製造業]

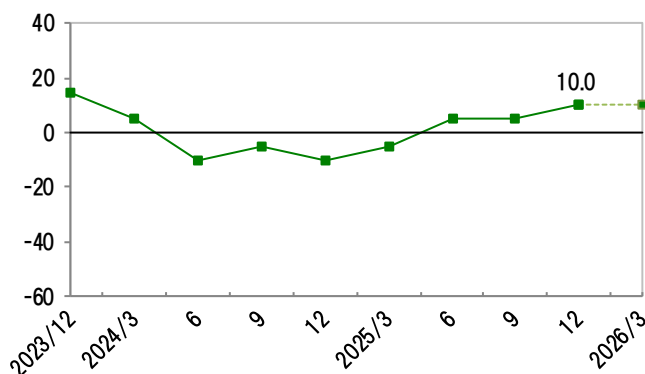


< その他卸売業 >

業種	2025 年 10-12 月（今回）業況		2026 年 1-3 月の見通し	
和飲食器		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		同水準の見通し
電設資材		前回調査に続きプラス圏で堅調に推移		後退見通し

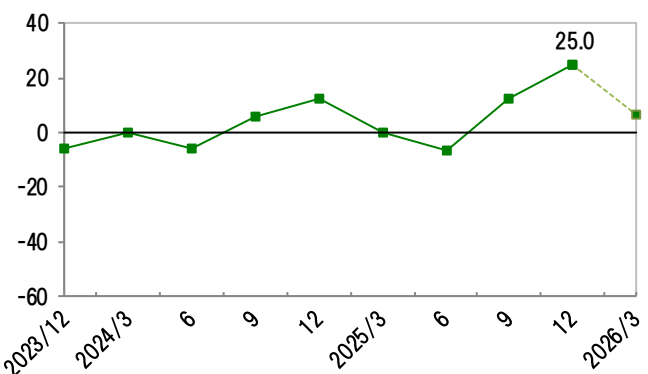
業況DIの推移

[和飲食器卸売業]



業況DIの推移

[電設資材卸売業]



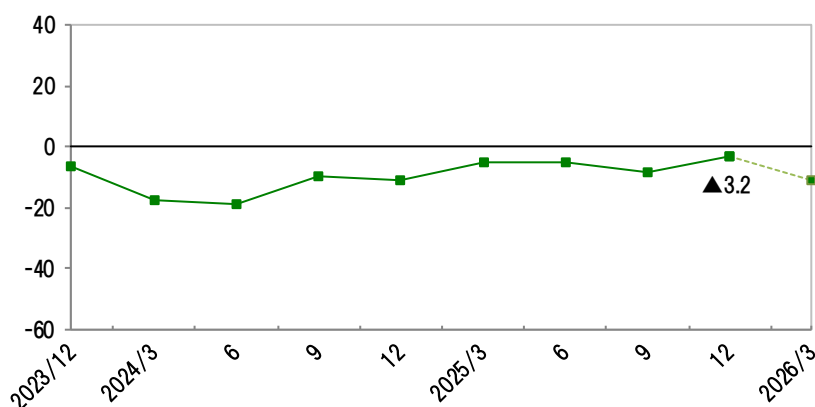
■ 名古屋地区

< 製造業 >

業種	2025 年 10-12 月（今回）業況		2026 年 1-3 月の見通し	
製造業全体		「紙加工品」において業況悪化が見られたが、「繊維製品」「機械部品」において改善が見られたことから、全体の業況感は前回調査に続きマイナス圏での推移ながらわずかに改善した。		悪化見通し
繊維製品		良化傾向、プラス圏に回復		後退見通し
機械部品		改善傾向、プラス圏に回復		悪化見通し
紙加工品		低下基調、前回調査に続きマイナス圏で推移		悪化見通し

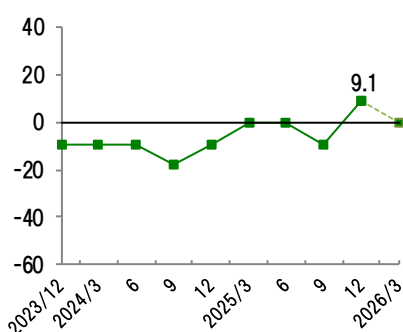
業況DIの推移

[製造業]

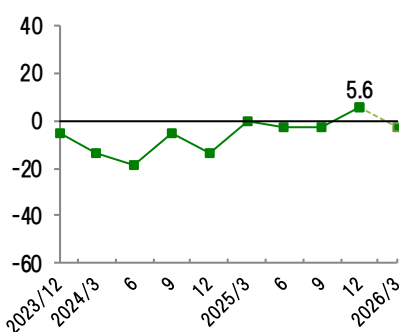


< 製造業の業種別 DI >

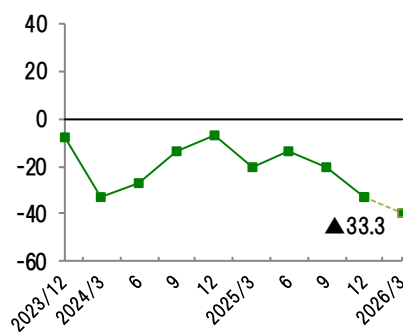
業況DIの推移 [繊維製品]



業況DIの推移 [機械部品]

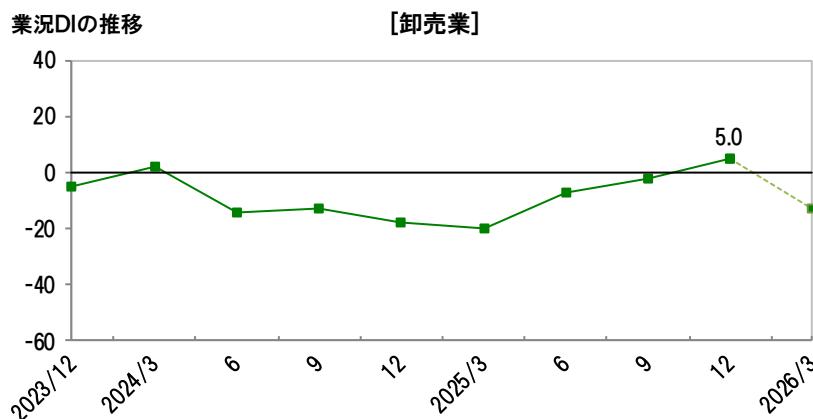


業況DIの推移 [紙加工品]



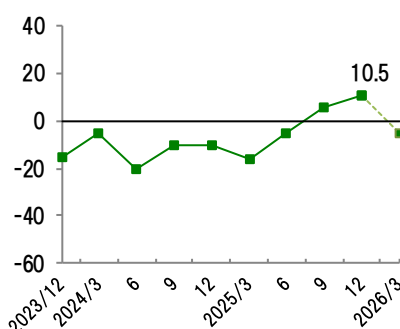
< 卸 売 業 >

業種	2025 年 10-12 月（今回）業況		2026 年 1-3 月の見通し	
卸売業全体		全業種において業況の改善が見られたことから、全体の業況感はプラス圏に回復した。		悪化見通し
鋼材・伸銅品		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		悪化見通し
建築材料		改善傾向ながら、前回調査に続きマイナス圏で推移		悪化見通し
家具・文具		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		後退見通し

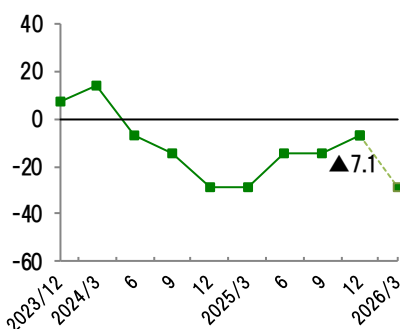


< 卸売業の業種別 D I >

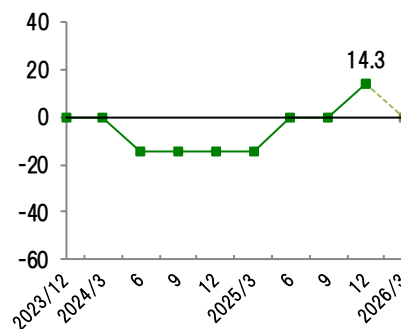
業況DIの推移 [鋼材・伸銅品]



業況DIの推移 [建築材料]

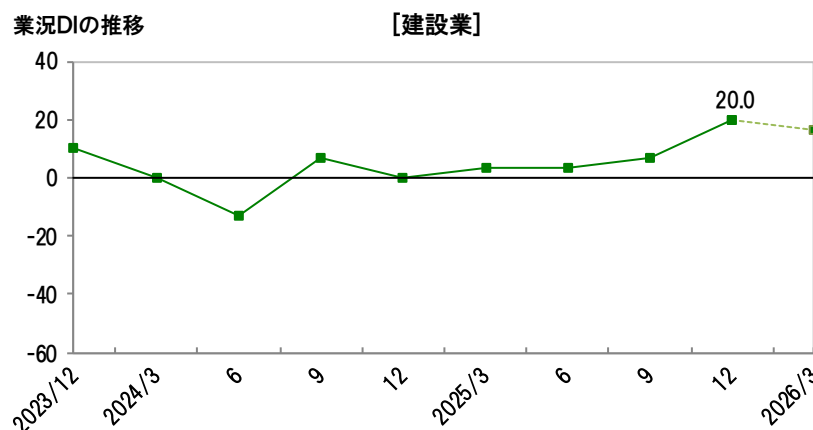


業況DIの推移 [家具・文具]



< 建 設 業 >

業種	2025 年 10-12 月（今回）業況		2026 年 1-3 月の見通し	
建設業		回復基調、前回調査に続きプラス圏で推移		後退見通し



■ 瀬戸・尾張旭地区

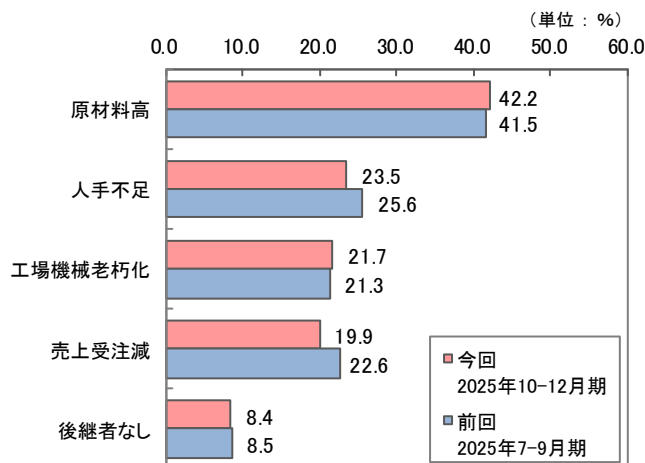
＜経営上の問題点＞

回答割合は「原材料高」が42.2%と最も高く、「人手不足(23.5%)」「工場機械老朽化(21.7%)」と続いた。前回調査と比較すると、「人手不足」が2.1ポイント低下、「売上受注減」が2.7ポイント低下した。

＜設備投資の動き＞

「実施あり」は3.6%（前回比▲2.5ポイント）と前回の実績を下回った。今後3か月間の見通しについて、「実施予定あり」は4.2%（今回比+0.6ポイント）の予想となった。

＜経営上の問題点＞



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

＜設備投資の動き＞

(単位：%)

	前回 2025年 7-9月期	今回 2025年 10-12月期	見通し 2026年 1-3月期
実施あり	6.1	3.6	4.2
土地	10.0	16.7	14.3
建物	40.0	50.0	42.9
機械の新設	20.0	16.7	57.1
機械の更改	30.0	50.0	28.6
その他	20.0	0.0	14.3
実施なし	93.9	96.4	95.8

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

■ 名古屋地区

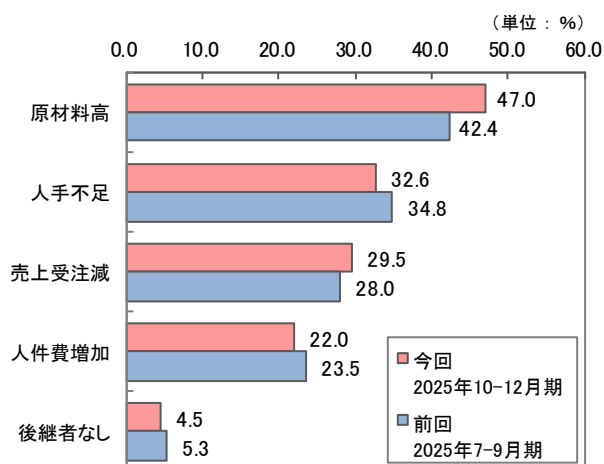
＜経営上の問題点＞

回答割合は「原材料高」が47.0%と最も高く、「人手不足(32.6%)」「売上受注減(29.5%)」と続いた。前回調査と比較すると、「人手不足」が2.2ポイント低下、「人件費増加」が1.5ポイント低下した一方、「原材料高」が4.6ポイント上昇、「売上受注減」が1.5ポイント上昇した。

＜設備投資の動き＞

「実施あり」は6.8%（前回比+0.7ポイント）と前回の実績を上回った。今後3か月間の見通しについて、「実施予定あり」は6.8%（今回比±0）と今回同様の予想となった。

＜経営上の問題点＞



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

＜設備投資の動き＞

(単位：%)

	前回 2025年 7-9月期	今回 2025年 10-12月期	見通し 2026年 1-3月期
実施あり	6.1	6.8	6.8
土地	12.5	0.0	11.1
建物	25.0	0.0	22.2
機械の新設	37.5	22.2	33.3
機械の更改	50.0	55.6	33.3
その他	0.0	33.3	11.1
実施なし	93.9	93.2	93.2

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

【 特 別 調 査 】 2026年(令和8年)の経営見通しについて

2026年(令和8年)の経営見通しについて調査するとともに、資金決済手段である紙の手形・小切手の利用状況についてもアンケートを行った。

＜調査対象先＞ 当金庫取引先 298 社
愛知県 703 社 全 国 12,953 社(愛知県、全国は信金中央金庫の調査によるもの)

1. 自社の業況見通し

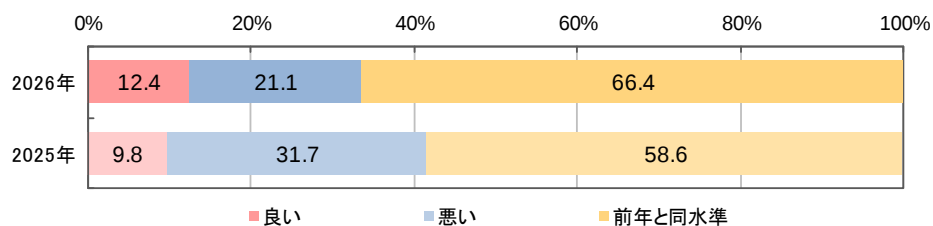
■当金庫全体

- ・2026年の業況見通しについて、「前年と同水準」が66.4%(前年比+7.8ポイント)と最も高い回答割合であった。
- ・「良い」との回答割合は12.4%(前年比+2.6ポイント)、「悪い」との回答割合は21.1%(前年比▲10.6ポイント)と、「悪い」とする回答割合が上回った。
- ・一方、「良い－悪い(DI)」の割合は▲8.7ポイントと、前年(▲21.9ポイント)と比較すると業況の見通しには改善が見られた。

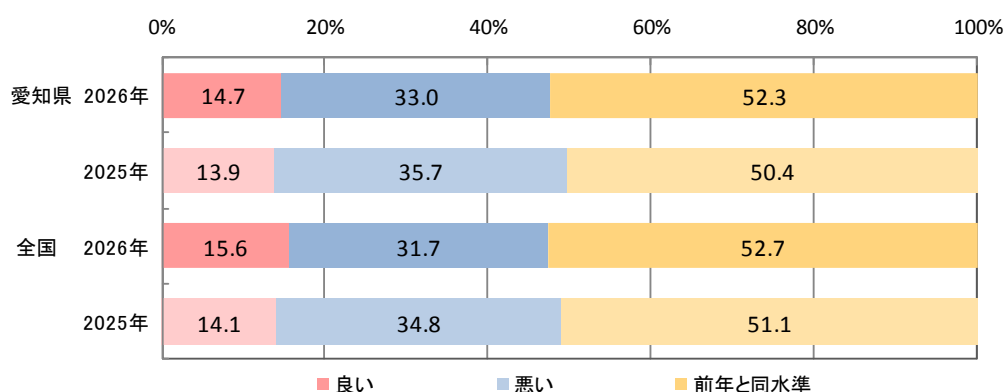
■愛知県、全国

- ・2026年の業況見通しについて、「前年と同水準」が愛知県52.3%(前年比+1.9ポイント)、全国52.7%(前年比+1.6ポイント)と最も高い回答割合であったものの、当金庫全体(66.4%)と比較すると水準は下回った。
- ・愛知県では、「良い」が14.7%(前年比+0.8ポイント)、「悪い」が33.0%(前年比▲2.7ポイント)、全国では、「良い」が15.6%(前年比+1.5ポイント)、「悪い」が31.7%(前年比▲3.1ポイント)と、当金庫全体同様、「悪い」との回答割合が上回った。
- ・一方、「良い－悪い(DI)」の割合は、愛知県▲18.3ポイント(前年比3.5ポイント改善)、全国▲16.1ポイント(前年比4.6ポイント改善)と、前年と比較すると僅かではあるが業況の見通しに改善が見られた。

■当金庫全体 2026年 業況見通し (前年との比較)



■愛知県、全国 2026年 業況見通し (前年との比較)



2. 自社の売上額の見通し(伸び率)

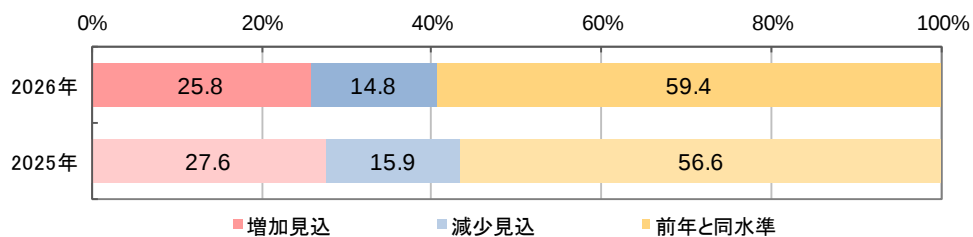
■当金庫全体

- ・2026年の売上額の見通しについて、「前年と同水準」が59.4%(前年比+2.8ポイント)と最も高い回答割合であった。
- ・「増加見込(25.8%)」と「減少見込(14.8%)」を比較すると、「増加見込」の回答割合が上回ったものの、両回答とも前年と比較すると割合は低下した。
- ・「増加見込－減少見込(DI)」の割合は11.0ポイントと、前年(11.7ポイント)とほぼ同水準の結果となった。

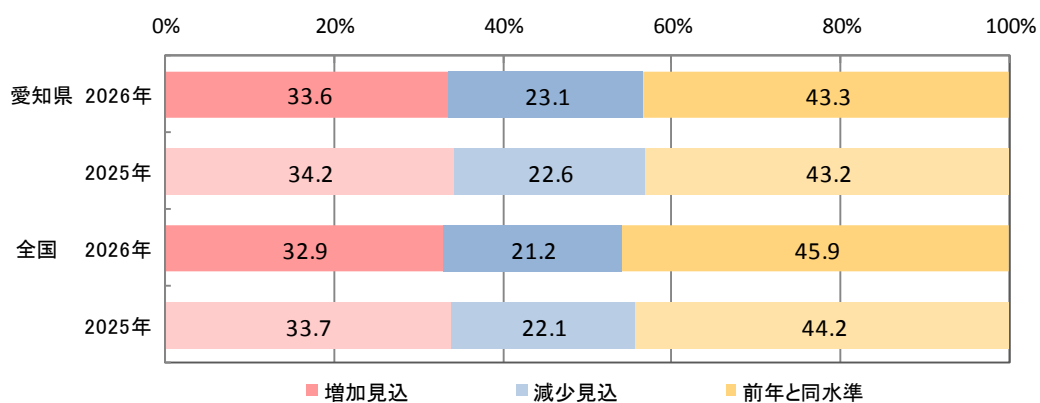
■愛知県、全国

- ・2026年の売上額の見通しについて、「前年と同水準」が愛知県43.3%(前年比+0.1ポイント)、全国45.9%(前年比+1.7ポイント)と最も高い回答割合であったものの、当金庫全体(59.4%)と比較すると水準は下回った。
- ・「増加見込」と「減少見込」の回答割合は、愛知県・全国ともに前年とほぼ同水準であった。
- ・「増加見込」と「減少見込」との回答割合は、ともに当金庫全体と比較すると上回る水準であるものの、「増加見込－減少見込(DI)」の割合は、愛知県10.5ポイント、全国11.7ポイントと、当金庫全体(11.0ポイント)とほぼ同水準であった。

■当金庫全体 2026年 売上額見通し(伸び率) (前年との比較)



■愛知県、全国 2026年 売上額見通し(伸び率) (前年との比較)



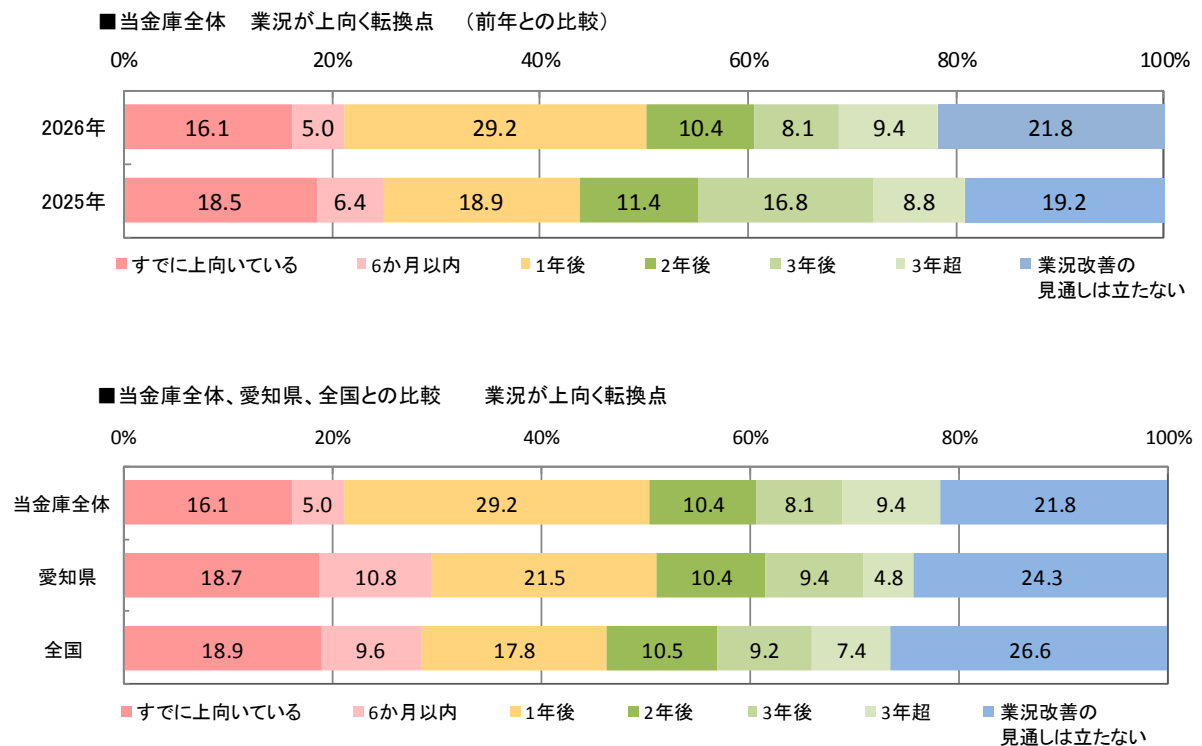
3. 自社の業況が上向く転換点

■当金庫全体

- ・自社の業況が上向く転換点について、「1年後」の回答割合が29.2%と最も高く、「業況改善の見通しは立たない」が21.8%と続いた。
- また、短期である「1年後」が前年比10.3ポイント上昇した一方、長期である「3年超」、「業況改善の見通しは立たない」もそれぞれ0.6ポイント、2.6ポイント上昇しており、取引先間において業況感の差が広がっていることが窺える結果となった。

■愛知県、全国

- ・自社の業況が上向く転換点について、「すでに上向いている」が愛知県18.7%、全国18.9%、「6か月以内」が愛知県10.8%、全国9.6%と、当金庫全体と比較すると、より早い段階で業況が上向くと考えている企業が多かった。
- 一方で、「業況改善の見通しは立たない」は愛知県24.3%、全国26.6%と、こちらも当金庫全体と比較すると回答割合は高い結果であり、愛知県・全国では、当金庫全体よりもさらに企業間の業況感の差が広がっていることが窺える結果となった。



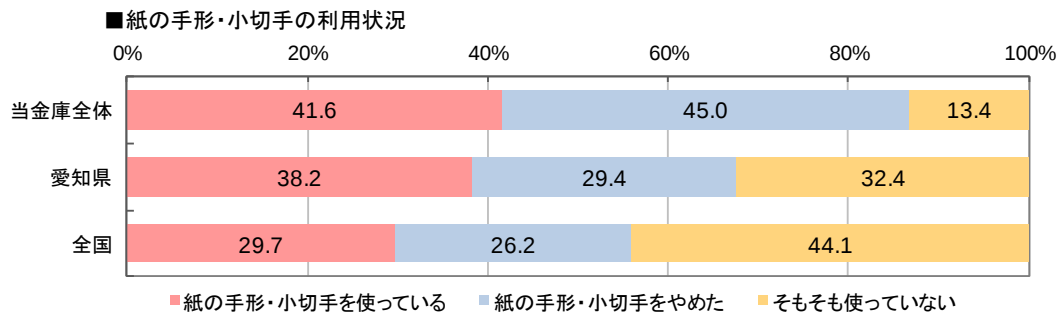
4. 紙の手形・小切手の利用状況

■当金庫全体

- ・政府や全国銀行協会は、2027 年 3 月末までに紙の手形・小切手を廃止する方針を示している。
現在、「紙の手形・小切手を使用している」との回答割合は 41.6%と、4割超の取引先において、手形・小切手の利用があった。
- ・紙の手形・小切手を利用している理由について、「取引先との慣行で使わざるを得ない」との回答割合が 55.8%と半数以上を占めており、取引先との関係が手形・小切手廃止の障壁となっていることが窺える。以下、「でんさい、IB等の操作面に懸念」が 13.0%、「経理事務の変更が困難」が 9.6%と、事務面・コスト面の回答が続いた。
- ・「紙の手形・小切手をやめた」との回答割合は 45.0%であった。手形・小切手をやめた後の資金決済手段としては、「IB」の利用が 58.2%と高く、「でんさい」の利用は 39.6%にとどまった。

■愛知県、全国

- ・現在、「紙の手形・小切手を使用している」との回答割合は愛知県 38.2%、全国 29.7%と、当金庫全体を下回る水準ではあるものの、手形・小切手を利用している先は一定割合残存している結果となった。
- ・紙の手形・小切手を利用している理由について、当金庫全体同様、「取引先との慣行で使わざるを得ない」との回答割合が、愛知県 52.1%、全国 50.8%と最も高い回答割合であった。
- ・「紙の手形・小切手をやめた」との回答割合は、愛知県 29.4%、全国 26.2%であった。
手形・小切手をやめた後の資金決済手段としては、「IB」が愛知県 50.0%、全国 50.4%、「でんさい」が愛知県 44.9%、全国 45.4%と、「でんさい」の利用は当金庫全体と比較すると高い水準であった。
- ・なお、「そもそも使っていない」との回答割合は愛知県(32.4%)、全国(44.1%)と、当金庫全体(13.4%)と比較すると回答割合は高く、当金庫の取引先は、愛知県・全国と比較すると、紙の手形・小切手の使用が一般的であったことが窺える結果となった。



【紙の手形・小切手を利用している理由（単位%）】

	取引先との慣行で使わざるを得ない	でんさい、IB等の操作面に懸念	経理事務の変更が困難	コスト面で現状のままだ最適	でんさい、IB等のセキュリティ面に懸念	その他
当金庫全体	55.8	13.0	9.6	9.6	4.8	7.2
愛知県	52.1	6.8	12.3	15.2	1.8	11.8
全国	50.8	9.4	13.8	12.8	4.4	8.8

【紙の手形・小切手の代替資金決済手段（単位%）】

	IB	でんさい	その他
当金庫全体	58.2	39.6	2.2
愛知県	50.0	44.9	5.1
全国	50.4	45.4	4.2

企 業 景 気 動 向 調 査 No.191

愛知県瀬戸市東横山町 119 番地の 1



総合企画部

2026 年 1 月発行